

コーポレート・ガバナンス

経営の質の向上と、迅速で的確な意思決定を行うガバナンスの充実

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、「企業活動全体の質」の改善向上活動に取り組み、広くお客様や社会から信頼を得て、社会的価値を高めるといった考えのもと、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、その適正な運営に取り組んでいます。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

● 取締役会・執行役員制度

取締役会を経営に関する意思決定及び業務執行の監督機関としており、取締役会が決定した経営方針に基づく業務執行権限を執行役員に委譲し、経営意思決定の迅速化と事業執行機能、監督機能の強化を図っています。

● 監査役会

社外監査役2名を含む4名で組織されており、監査役は取締役会に出席するなど、取締役の職務執行を監査しています。

● 企業倫理中央委員会

社会規範及び法令遵守の推進をより一層図るため、「企業倫理中央委員会」によりコーポレート・ガバナンス体制を推進しています。

● コンプライアンス委員会

コンプライアンス分担役員を委員長として、コンプライアンスに関する教育啓蒙と再発防止策の指導徹底を行います。

● 危機管理委員会

自然災害をはじめとするリスク事象における迅速・的確かつ誠実な対応と、平時における危機管理活動を推進しています。

● TQM推進中央委員会

竹中品質経営(TQM)を推進するため、経営活動全般にわたる課題及び問題を調査、立案及び審議し、「作品サービスの質」と「業務の質」のレベルアップにより「経営の質」の向上を図っています。

● 経営計画中央委員会

経営計画を策定して取締役会に上程するとともに、計画の実施状況の確認と関連業務運営上の問題点への対応を行っています。

● サステナビリティ中央委員会

社会的要請を受ける課題を特定するとともに、その対応方針及び計画をグループ横断的に審議、立案を行い、当社の企業価値の向上と発展に努めています。

● 監査室

経営活動に関する自己統制手段である内部監査組織として監査室を設置し、会社の業務、会計及び財産の実態について、その正確性・妥当性の確認を行っています。

● サステナビリティ推進部

本社にサステナビリティ推進部を設置し、グループ全体にわたって任命するCSR・コンプライアンス推進責任者、CSR・コンプライアンスリーダーによる人権・コンプライアンスに関する教育・啓蒙を推進しています。

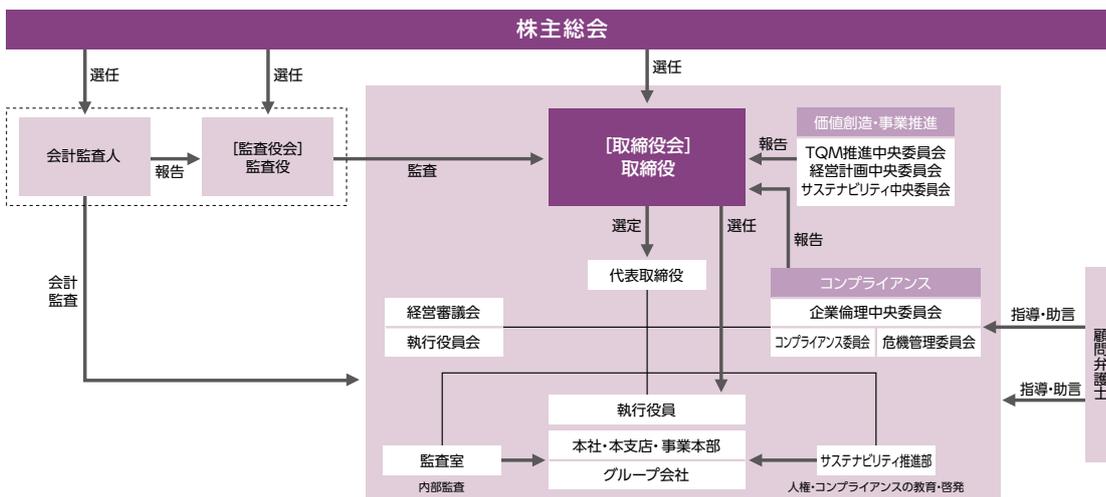
● 会計監査人

会社法及び金融商品取引法の会計監査について、独立監査人としての公正・不偏的立場から監査を受けています。

● 顧問弁護士

複数の法律事務所と顧問契約を締結し、必要に応じて指導・助言などを受けています。

コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンス/リスクマネジメント

健全で強固な組織基盤の強化に向けて

コンプライアンスの徹底

コンプライアンスを徹底・推進させる**体制**として、社長を委員長とする企業倫理中央委員会の下にコンプライアンス委員会を設置し、活動方針を定め推進状況を確認するとともに、個別事案の対応状況を確認し改善策を指示しています。更に支店委員会を設置し、方針及び施策の展開を図り、各事業所にコンプライアンスの推進役を配置しています。

企業行動規範において公正な取引、政治・行政との透明性の高い関係維持、不当な利益などの取得を目的とする贈収賄等を行わないことを明記しています。また、竹中グループでは、各国・地域の法令及び国際ルール等に従い、適正な納税を行うという社会的責任・公共的使命を果たしていくため、2020年に「**税務方針**」を制定しました。教育啓発では、全従業員に対する企業行動規範のeラーニング、各種法令改正等も含めた階層別研修の実施、最新動向を取りあげるニュースの発行、毎年のグループ全体の強化月間でトップメッセージの発信、全従業員参加の職場ミーティングなどを実施しています。

人権尊重の取り組みの推進

2018年9月1日に人権方針を制定し、国連の「**ビジネスと人権に関する指導原則**」に基づき、当社の「**企業理念**」及び「**企業行動規範**」に従って、事業活動において**活動指針**を定めて、人権尊重に向けた取り組みを推進しています。

同年に特定・評価した人権リスクの軽減に取り組み、毎年有識者による評価を受け、改善を図っています。

また、2022年以降は、人権リスクの大きい海外サプライチェーンに対して、実際に現地に出向いて、協力会社の従業員との対話や、作業条件・職場環境の確認を通じて、人権侵害がないことを確認しています。

リスクマネジメントの確立

市民生活や企業活動に脅威を与える反社会的勢力やテロ、サイバー攻撃、自然災害、その他事故などに備え、企業倫理中央委員会の下に設置した危機管理委員会を中心に組織的な**危機管理体制を整備**しています。

● 情報セキュリティの強化

情報セキュリティに関する基本方針を定め、お客様の情報資産を守るための**情報セキュリティ活動**を推進しています。

特に最近のDXの推進によるクラウド、IoT、AIなどの活用の広がりやサイバー攻撃の脅威拡大を受け、海外も含めた竹中グループ全体で、社外からの攻撃や不正侵入を防御するシステム及び攻撃を早期に検知して被害を最小化できる仕組みを導入するとともに、「**TAKENAKA-SIRT**」によるインシデント対応体制を整備しています。また、サプライチェーンのサイバーセキュリティ対策強化のため、昨年3月に主要協力会社向けのオンラインセミナーを初めて開催しました。

● 事業継続計画(BCP)の確認

巨大地震、風水害、火山噴火等の自然災害の発生を想定し、従業員・家族の安否確認、各事業所・作業所・お客様にお引き渡した建物の被災状況確認・復旧などを全社的に行う**BCPを策定**しています。

毎年、災害発生後の初動訓練として、机上訓練、地域性を踏まえた実動訓練、全社連携体制確認訓練をグループ会社従業員とともに実施しています。また、近年、各地で台風や大雨による被害が多発していることを鑑み、「**風水害対策マニュアル**」を策定し、有事に備えています。

地震や風水害に加え、火山噴火、とりわけ富士山における大規模噴火が発生した場合、降り積もる火山灰によって首都圏は広範囲で甚大な影響を受けると予想されています。当社では、「**火山噴火対策マニュアル**」を新たに策定し、施設整備や備蓄品の見直しなどの降灰対策を推進しています。

社会貢献

社会貢献活動

当社は重要文化財「聴竹居」の保存・公開・活用を行うとともに、3つの企業財団「公益財団法人竹中育英会」「公益財団法人竹中大工道具館」「公益財団法人ギャラリーエークウッド」と連携して、建築文化の発信をはじめとするメセナ活動を推進しています。

重要文化財「聴竹居」の全館公開

この建物は京都府大山崎町に遺る昭和初期を代表する木造モダニズム住宅です。当社設計組織の黎明期に在籍後、京都大学教授となった故・藤井厚二が、住宅の改良を重ねながら建てた5回目の自邸です。当社は、2016年末に「聴竹居」を取得し、2017年に国の重要文化財に指定され、地元との連携・協力のもと、地域一体となった建築文化の醸成と発信に努めています。2018年からは文化庁・京都府・大山崎町の指導と国庫補助を受けながら、当社は事業主として、災害復旧、保存修理、防災施設、外構庭園などの整備事業を進めてきました。☞**2023年春に一連の整備事業を完了**し、現在、ほぼ竣工当時の姿に甦らせた「本屋・閑室・茶室」の3つの建物と庭園の全館を予約制で公開しています。見学では地元スタッフによる熱意あふれる解説を愉しむことができます。

☞ [一般社団法人聴竹居倶楽部](#)



改修後の聴竹居 右上・左上:本屋、左下:閑室、右下:茶室

企業財団のグローバルな活動と相互連携

当社は大工道具館、ギャラリーエークウッド、育英会の3財団の活動支援を通じて、「伝統技術の伝承」、「建築文化の発信」、「未来を担う人材の育成」など、過去・現在・未来をつなぐ取り組みを展開しています。大工道具館はこれまで海外展示を行ってきており、2022年ポーランド、2023年パリで日本の伝統建築を普及する特別展を実施しました。育英会とギャラリーは共催し、教育・普及をテーマに、2022年「月で暮らそう、月で遊ぼう」展、2023年に「本の

ある風景」展などを開催しました。各財団の設立趣旨を踏まえ、SDGsの示す社会課題にも取り組んでいます。



ポーランド展

本のある風景展

● 公益財団法人竹中育英会

1961年に設立した竹中育英会は、創設者であり初代理事長である竹中藤右衛門の「感恩報謝」の理念のもと、青少年の育成と教育の深耕を図ることを趣旨に、返済不要の奨学金給付事業をはじめ、建築分野への研究助成や、ハンディキャップフィールドへの研究助成・教育設備助成を行っています。2012年からは展示会開催を主とする文化芸術振興事業も開始し活動の幅を広げています。

☞ [竹中育英会](#)

● 公益財団法人竹中大工道具館

1984年、神戸元町に「大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて工匠の精神や大工道具鍛冶の心を後世に伝えていく」ための施設として開設されました。2014年に新神戸駅近くに移転し、木の香りにあふれる和風建築の博物館に、日本の伝統文化に関心がある外国人を含め多くの見学者が訪れています。教育支援にも力を入れており、出張授業や実習生受け入れなどを行っています。

☞ [竹中大工道具館](#)

● 公益財団法人ギャラリーエークウッド

2005年に竹中工務店東京本店社屋1階に「建築の楽しみ方、芸術性や文化性」を発信する場として開設し、自主企画による展示を中心に行ってきました。建築文化をデザインや技術、自然や環境、暮らしや生き方、教育、科学、街づくりなど、より広い視点で捉えることで、人々の身近な課題と建築との親和性を深め、未来への視座をもって、より豊かな社会形成に寄与することを目指しています。

☞ [ギャラリーエークウッド](#)

社会貢献

地域貢献活動

本社及び各本支店において、拠点事務所を中心とした地域のイベントへの参加・協力、地元の学校・大学などでの授業・講義などを行っています。また、竹中工務店では、地域貢献事例をいつでも収集できるようにしています。優れた地域貢献活動については、毎年6月に表彰しています。

本支店における地域貢献

● TAKENAKAキッズプログラム「たてもの探検隊」

「たてもの探検隊」は、当社が手掛けている建物に地域の小学生を招き、対象の建物の特徴となる技術や取組みを、見て触れて感じてもらう体験型の企画です。2019年から開始し、これまでに当社が施工したランドマーク的な建築物や、環境に配慮した木造集合住宅などで活動を行ってきました。

2023年は、**免震構造の区庁舎の新築工事作業所**で行いました。新庁舎の特徴である「免震技術」について、クイズや模型、免震体験を通じて、子どもたちに地震から建物を守る最新技術を学んでもらい、多くの子どもたちに建築に興味をもってもらうことができました。これからも、子どもたちを含めた地域の皆様に建築の魅力を伝え、次世代を担う人材の育成と地域社会の発展に貢献していきます。



子どもたちによる作業所体験

本社における地域貢献

現在、東京本店、本社が入っている竹中セントラルビル、グループ会社が主に入っているセントラルビル・サウスのある東京都江東区のイベントに、継続的に協賛・参加して、ワークショップなどを開催しています。ワークショップの収益は、国内の森林の健全化などを目的とする、公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付しています。

● 江東区環境フェア

□「**江東区環境フェア**」は、近隣住民を対象に毎年6月に、江東区の環境学習情報館「えこっくる江東」において開催される、環境をテーマとしたイベントです。

木の使用が森林の活性化、CO₂削減につながることから、当社ブースでは、木を使った「組子コースターづくり」ワークショップを行いました。「組子」とは、精密な加工をした木材を、釘を使わずに幾何学的な文様に組み付ける伝統木工技術で、ワークショップでは、木曽のヒノキを素材とした組子キットから、コースターを組み上げていきます。このキットは、公益財団法人竹中大工道具館の協力を得て提供していただいているものです。

ブース内では、当社の木造・木質建築の取り組みもポスターで紹介しました。



ワークショップ

環境・社会貢献賞表彰

毎年6月を「竹中グループ環境月間」として、「生物多様性シンポジウム」の開催や啓蒙ポスターの掲示など、様々な活動を行っています。その一環として、□「**環境・社会貢献賞表彰**」があり、「環境貢献賞」とあわせて、地域社会に多大な貢献をした活動に対して「社会貢献賞」を表彰しています。応募された地域・社会貢献活動の中から、竹中工務店及びグループ会社役員による厳正な審査を経て選ばれた優秀な活動には、竹中工務店社長から「社会貢献活動優秀賞」を授与しています。

表彰式では、賞状と副賞の授与だけでなく、受賞者が活動内容を紹介しています。この様子はWEBでリアルタイムに全従業員に配信しており、地域・社会貢献への更なる啓蒙に努めています。



賞状の授与と優秀賞受賞者による受賞活動の紹介

社外評価

主要な社外からの表彰

当社が「品質経営」を基本姿勢とし、これまで継続的に行ってきた環境への取り組みと建築・まちづくりは、社外からもその実績が高く評価され多数の賞を受賞しています。

[主な受賞はこちら](#)

BCS賞

一般社団法人 日本建設業連合会 主催

「BCS賞」は、「優秀な建築物を作り出すためには、デザインだけでなく施工技術も重要であり、建築主、設計者、施工者の三者による理解と協力が必須である」という考えのもと、1960年に創設されました。良好な建築資産の創出を図り、文化の進展と地球環境保全に寄与することを目的に、優秀な建築作品が表彰されてきました。学識経験者・建築家・建設業関係者の各分野からの選考委員により現地審査・選考が行われます。



2023年度 BCS賞 WITH HARAJUKU

受賞数累計	237件(1位)
うち設計施工受賞数累計	122件(1位)
2023年度設計施工での受賞数	3件(1位)

()内は総合建設業における比較

BELCA賞

公益社団法人 ロングライフビル推進協会(BELCA) 主催

BELCA賞は、長期にわたる適切な維持保全と、優れた改修を実施した既存の建築物を対象とし、建物のロングライフ化への寄与に対する表彰制度です。ロングライフ部門とベストリフォーム部門の2部門からなり、賞の選考は、学識経験者と実務に精通した委員から構成される「BELCA賞選考委員会」により現地審査・選考が行われ、表彰建築物が決定されます。



2023年度 BELCA賞ベストリフォーム部門 蔵吉屋-BYAKU Narai-

受賞数累計	80件(1位)
うち設計施工及び設計受賞累計数	39件(1位)
2023年度受賞数	2件(2位)

()内は総合建設業における比較

グッドデザイン賞

公益財団法人 日本デザイン振興会 主催

世界でも有数の規模と実績を誇るデザイン賞で、1957年に旧通商産業省によって開始されました。その審査基準は時代とともに変遷し、日本のデザインと産業の「マイルストーン」とも言われています。



2023年度 グッドデザイン賞
代々木参宮橋テラス

受賞数累計	233件(1位)
2023年度受賞数	11件(1位)

システム開発・プロダクト含む受賞数 ()内は総合建設業における比較

日本建築学会 作品選集

一般社団法人 日本建築学会 主催

1989年に始まり、日本における建築作品の発表の場として、国内外より高い評価を受けています。現地審査を経て、掲載する作品が決定され、その中で特に優れたものが作品選集として選ばれます。



2023年度 作品選集
タクマ新館(研修センター)

掲載数累計	303件(1位)
2023年度掲載数	13件(1位)

()内は総合建設業における比較

その他受賞

環境、木材活用、学会関連、海外の賞を広く受賞しています。2023年度の主な受賞は以下です。

環境・設備デザイン賞	最優秀賞1件、他4件
ウッドデザイン賞	10件
空気調和・衛生工学会賞	1件
電気設備学会賞	最優秀施設賞1件 他1件
IDA	2件

IDA(International Design Awards)は2023年応募作品からの受賞件数

社外評価

ESGにかかわる評価と活動

1. 社外からの評価

● 主要な社外からの認定・活動に対する表彰

当社がこれまで継続的に行ってきたサステナビリティへの取り組みに対し、その実績が社外から高く評価されています。以下に主要な認定、当社サステナビリティ活動に対しての受賞の一部をご紹介します。

☞ [認定・受賞一覧はこちら](#)

● 2023年の主な受賞

EcoVadisサステナビリティ評価「ゴールド」を取得

2023年10月、フランスに本拠地を置くEcoVadis社によるサステナビリティ評価で、「ゴールド」を取得しました。



竹中技術研究所の「調の森 SHI-RA-BE®」が「自然共生サイト」に認定

2023年10月、竹中技術研究所(千葉県印西市)の「調の森 SHI-RA-BE®」が、民間等の取り組みによって、生物多様性の保全が図られている区域である、環境省の「自然共生サイト」に認定されました。

☞ [詳細はこちら](#)



健康経営優良法人に認定

竹中工務店は、2019年以来連続して経済産業省が定める「健康経営優良法人」※に認定されています。

※健康優良法人制度は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している企業を顕彰する制度です。



☞ [当社の「健康経営」](#)

● サステナビリティ評価

項目	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	備考
EcoVadisランク	ゴールド	—	プラチナ	ゴールド	ゴールド	2020年は受賞時のずれによりスコアなし
CDP気候変動スコア	—	B	A-	B	B	2020年より自主回答
日経SDGs経営調査	★3.5	★3.5	★4	★3.5	★3.5	2019年調査開始

2. サステナブルファイナンス

● 背景と目的

サステナブルファイナンスは、持続可能な開発目標(SDGs)やパリ協定の採択など、持続可能な社会構築が大きな課題となる中で、新たな産業・社会構造への転換を促すことを目的としており、持続可能な経済社会システムを支えるインフラと位置付けられています。2023年から、ポジティブ・インパクト・ファイナンスとサステナビリティ・リンク・ローンの活用を開始しました。当社は、社会課題の解決と自社グループの持続的な成長を目指し、2023年から、短中長期の視点も盛り込んだ当社グループならではの重要課題(マテリアリティ)を再設定し、その取り組みを開始しています。今後も引き続き、SDGs(持続可能な開発目標)の達成と、サステナブル社会の実現に貢献していきます。

☞ [詳細はこちら](#)

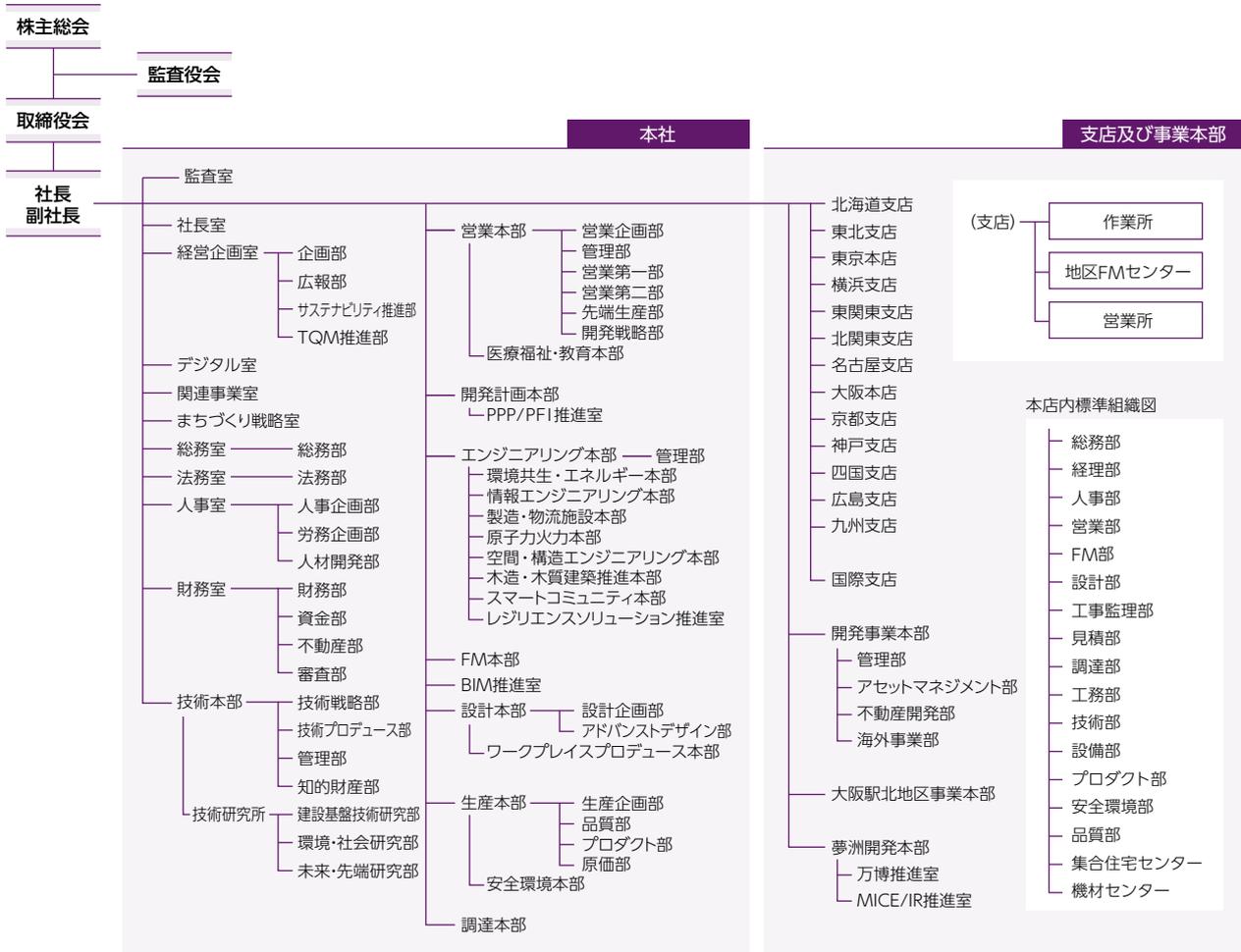
会社概要

社名	株式会社竹中工務店
本社所在地	大阪市中央区本町4-1-13
資本金	500億円(2024年3月現在)
建設業許可番号	国土交通大臣許可(特-1、般-1)第2744号
従業員数	7,786名(グループ全体13,507名) (2024年1月現在)
グループ会社	子会社55社、関連会社13社、 その他関係会社1社
資格者数	1級建築士……………2,427 1級建築施工管理技士……………2,362 技術士……………252 博士……………127 (2024年1月現在)

- 事業内容**
1. 建築工事及び土木工事に関する請負、設計及び監理
 2. 建設工事、地域開発、都市開発、海洋開発、宇宙開発、エネルギー供給及び環境整備等のプロジェクトに関する調査、研究、測量、企画、評価、診断等のエンジニアリング及びマネジメント
 3. 土地の造成並びに住宅の建設
 4. 不動産の売買、賃貸、仲介、斡旋、保守、管理及び鑑定並びに不動産投資に関するマネジメント 他

取引銀行 三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、三井住友信託銀行、農林中央金庫 他

組織図 (2024年4月1日付)



財務・非財務ハイライト

損益計算書・貸借対照表(連結)

(百万円)

	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021	第85期 2022	第86期 2023
受注高	1,419,121	1,238,508	1,306,428	1,445,799	1,685,757
売上高	1,352,064	1,237,758	1,260,430	1,375,410	1,612,423
営業利益	80,235	39,788	46,367	28,333	45,676
営業利益率(%)	5.9	3.2	3.7	2.1	2.8
経常利益	89,502	46,954	57,799	39,392	59,301
親会社株主に帰属する 当期純利益	68,918	30,528	39,346	30,266	37,464
純資産	762,642	751,745	822,449	873,909	977,375
総資産	1,519,771	1,442,958	1,581,524	1,741,214	1,997,069

その他の財務データ(連結)

(百万円)

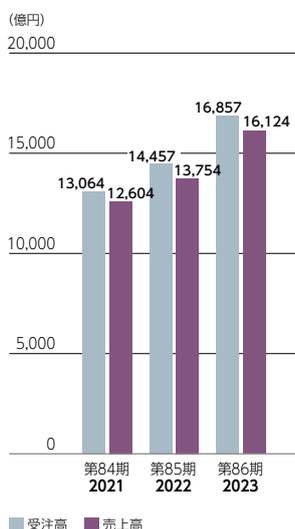
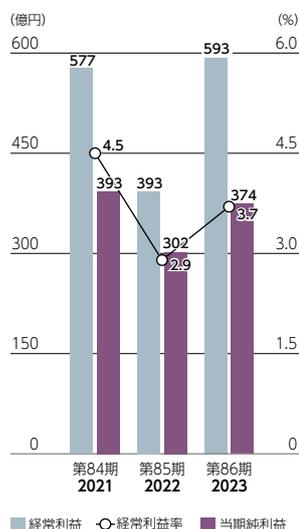
	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021	第85期 2022	第86期 2023
営業活動によるキャッシュフロー	△45,512	△7,863	96,522	△3,505	110,253
投資活動によるキャッシュフロー	△15,448	△33,051	△14,654	△48,510	△34,593
財務活動によるキャッシュフロー	△14,509	23,054	2,200	△4,201	△7,725
研究開発費(億円)	93	93	95	91	91
設備投資(億円)	417	432	267	458	481
自己資本利益率(ROE)(%)	9.7	4.1	5.0	3.6	4.1

事業別売上高(連結)

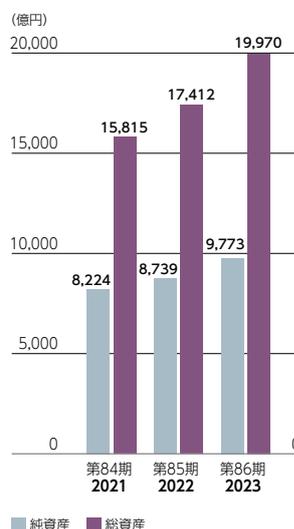
(百万円)

	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021	第85期 2022	第86期 2023
建設事業	1,241,923	1,146,184	1,152,439	1,246,212	1,471,738
開発事業	54,448	35,571	49,254	66,106	70,752
その他	55,692	56,002	58,736	63,091	69,932

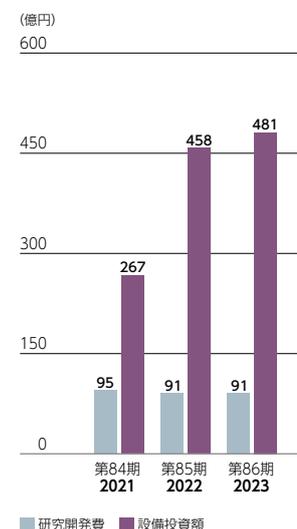
受注高/売上高(連結)

経常利益・経常利益率/
親会社株主に帰属する当期純利益(連結)

純資産/総資産(連結)



研究開発費/設備投資額(連結)



地域別売上高(連結)

(百万円)

	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021	第85期 2022	第86期 2023
日本	1,198,630	1,117,451	1,114,353	1,161,857	1,320,913
アジア	74,534	64,605	79,456	120,777	183,870
欧州	48,315	44,605	45,070	52,406	64,370
北米	30,584	11,095	21,549	40,368	43,268
その他	—	—	—	—	—

非財務データ(単体)

	第82期 2019	第83期 2020	第84期 2021	第85期 2022	第86期 2023
従業員数(人) (連結)	7,630 (13,355)	7,741 (13,171)	7,757 (13,212)	7,751 (13,278)	7,786 (13,507)
従業員平均年齢(歳)	44.0	44.0	44.1	44.3	44.6
平均勤続年数(年)	17.1	19.1	18.5	18.6	18.9
女性役付職人数(人)	131	146	155	164	175
度数率 (休業4日以上災害) ^{※1}	0.62	0.43	0.63	0.26	0.45
施工時CO ₂ 排出量 原単位(t/億円) ^{※2}	10.3	9.9	8.3	8.7	9.9
産業廃棄物リサイクル率 (容量%) ^{※3}	92.0	93.5	94.5	94.3	94.9
CASBEE S・Aランク プロジェクト件数比率(%) ^{※4}	89.2	91.7	93.8	98.5	95.2

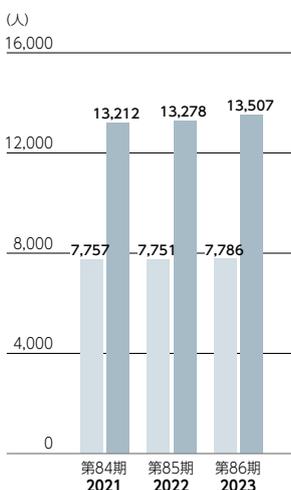
※1 内勤時間を除いた度数率。100万延労働時間あたりの休業4日以上労働災害による死傷者数の割合(1人親方等を含む)

※2 施工高あたり

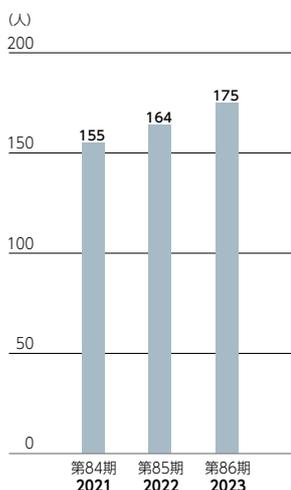
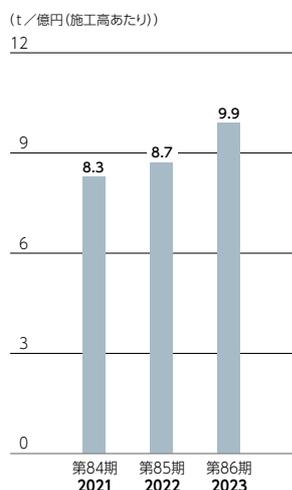
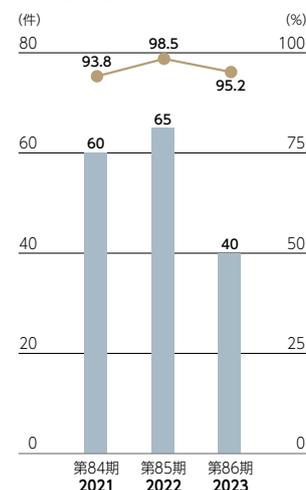
※3 新増築・改修・解体工事が対象。建設汚泥、特別管理廃棄物は含まない

※4 Sランク及びAランクプロジェクトの合計。対象は当社設計プロジェクト

従業員数(単体・連結)



女性役付職人数(単体)

施工時CO₂排出量原単位(単体)CASBEE S・Aランク
PJ 件数/比率(単体)

■ 単体 ■ 連結

■ 件数 ● 比率